

公益財団法人痛風財団  
平成30年度事業計画書

1. 基本方針

痛風・高尿酸血症並びに関連疾患に関する研究助成を主目的として発足した当財団は、その発症機序や治療に関する研究水準を更に発展させるために支援活動を維持継続していくことに注力している。

現在わが国の痛風通院患者数は約 100 万人、高尿酸血症患者数は 1,000 万人近くに達しており何れも減少の兆しは見えず、引き続き未解明の課題について詳細な研究が求められているが、他方研究者を支える資金は年々厳しさを増しており、これ等研究者への当財団の支援助成事業は関係者の期待も高く、また助成に加えて医師や医療関係者を対象とした診療の研修と、更には痛風・高尿酸血症に関する一般国民への啓発活動を活動の柱としつつ国民保健の向上へ寄与することを基本理念としている。

2. 計画内容

(1) 研究助成

◇ 対象

当財団の助成が活用され痛風・高尿酸血症の解明や新薬の開発及び治療ガイドラインの整備など多くの成果が得られているが、今後一段の成果が期待される研究課題を掲げる団体・共同研究グループ及び個人に対して支援助成を行う。

助成は、痛風・高尿酸血症に関する臨床又は基礎分野での特色ある研究と、一般研究を対象として応募を受け付ける。

申請受付は平成30年9月1日より同10月31日までとする。

◇ 助成金総額予定 900万円

◇ 選考

理事長が専門分野を考慮して委嘱する10名程の選考委員による合議により選考を行う。

各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め審査の上採点し、その集計結果を参考として12月初旬の選考委員会に於いて審議を行い助成対象者と個々の助成金額を決定する。

◇ 研究成果の検証

当該助成に関する研究成果検証の為、平成32年2月までに関係論文の提出を求める。

(2) 第29回医師対象痛風研修会

今年で29回目となる痛風研修会を平成30年9月9日(日)に東京慈恵会医科大学の於いて開催する。

この研修会は全国の医師や薬剤師など医療関係者を対象として、痛風・高尿酸血症についての新しい研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、更に講師との質疑応答を通じて理解を深める

ことで診療普及に役立てている。

本年度の研修会プログラムは財団研修委員の山本徹也兵庫医科大学名誉教授を中心に作成され、本年6月までに決定し公表する予定である。

(3) 痛風協力医療機関の拡充

財団に寄せられる一般からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。何科の診療を受けたら良いか、専門の医師が診療に当たっている医療機関は何処かなどの相談に対し、現在全国に140ヶ所ある当財団が推薦する痛風協力医療機関を紹介して居る。然し未だ一般への便宜に応えるには不十分な地域が多く、痛風研修会参加医師への呼びかけや関係者からの紹介などを通じて推薦する医療機関を増やすよう努めて行く。

(4) インターネットホームページによる啓発事業

若年層や女性の痛風患者の増加傾向も反映して当財団ホームページへのアクセス数もスマートフォンからのアクセスが加わったこともあり一挙に増加して、年間200万件に達しておりこれに応じて痛風の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず全ての人々に役立つ情報の提供を心掛け、本年も更にその充実を計る予定である。

(5) 小冊子「尿酸値をコントロールする」や会報の発行

尿酸値に関する豆情報を纏めた小冊子の要望は大変多く、協力医療機関を通じて希望する患者へ広く行き渡るよう手配するほか、個別の希望者に対しても都度対応して行く。又、研究成果や医学情報などを掲載した財団会報を新春と夏の年2回発行して賛助会員他全ての関係者へ届け情報伝達を計っていく。

(6) 一般からの質問に対する対応

患者や家族その他一般からの質問や問い合わせ件数も依然多く、質問の内容は医療機関の紹介依頼から始まり、食事や飲料に関する注意点や痛風の治療に関する事など多岐に亘るが、これ等質問に対しては当財団が推薦する協力医療機関を紹介し、専門的内容についてはそれぞれ専門家に問い合わせ、その助言を得て質問者へ回答して居る。これ等一般への啓蒙助言活動は今後もきめ細かく対応する。

以上